



今月は、熊本県のテコンドーの創始者でありテコンドーを通じて国際交流にも努力されている国際師範七段、樋口悦夫さんをご紹介します。

テコンドーのダイナミックな足技に魅了され30年

現在、熊本県テコンドー協会会長の樋口さんが、テコンドーに出会ったのは、昭和51年。学生の頃短期留学したアメリカカリフォルニアの道場でした。そこで稽古を始めテコンドーに夢中に。その後帰国したものの当時日本には、全国組織もなく、まだほとんど知られていないのが現状でした。樋口さんは高校の時から空手の経験もあり、26歳の時に阿蘇町に道場を開設。地元の子どもたちに教えていましたが、テコンドーへの思いは強く、昭和60年、数年前に全国組織ができたテコンドー協会の九州では

初めての県支部として承認され、その後熊本市内にも道場を開設し、本格的な県内での普及活動をスタートさせました。平成6年、阿蘇町で第1号の県選手権を開催して以来、県大会、ジュニア大会等を毎年開き選手強化育成にも力を入れ、ここ阿蘇からも長男清輝さんのシドニー五輪への出場、最近では、西村純君(現在一の宮中)の全国ジュニア大会での優勝はじめ、津田ひかるさんの全日本選手権など全国、国際の舞台で活躍するすばらしい選手を輩出しています。

### 本場韓国との交流で世界へ

樋口さんは、さらなる普及と選手育成を目指し本場韓国との交流を開始。韓国への強化合宿参加をはじめ、日本で最初のテコンドー留学生であった清輝さんに続く留学生を数名送り出しています。津田ひかるさんも1年間の留学の成果を世界ジュニア選手権ベスト16と言った

ちで実証しています。青少年が視野を広げ国際感覚を身に付けることは重要」と樋口さん。本場韓国への留学にも前向きに取り組まれています。そんな中、今年2月に結ばれた、韓国太田広域市協会と県協会との姉妹提携は、今後の普及、選手強化に大きな力になるでしょう。

一昨年、世界8カ国が参加したの地方初となる本格的国際大会、熊本国際オープン2006』や、昨年、阿蘇体育館で日韓親善として開催した、第1回熊本オープン選手権大会』など、文化、風習の異なる国が同じ競技で汗を流し互いに讃えあう国際親善大会は大変意義がある。今後もテコンドーを通じて国際交流に貢献できればと思う」と樋口さん。阿蘇市の皆さんにもそのすばらしさを知っていただきたいと、昨年に続き、国際大会を阿蘇市で開催されます。本場韓国の選手や日本の有力選手が見事な足技を披露しますので、この機会にぜひご覧ください。



樋口 悦夫さん  
51歳、内牧2区

プロフィール  
旬ひぐちコーポレーション社長。  
1999年、日本人初の国際師範となる(国際師範7段)  
元JOC選手強化部委員(H12.131年度)、  
普段は3人の息子さんの優しいお父さん。  
仕事とテコンドーとの両立は「家族の理解あってこそ」と家族への感謝も。

今後の夢は、やはり多くのの人にテコンドーが愛されること

現在県内20ヶ所に道場、学校クラブなどがありますが、夢は、県内どんな小さな町でも道場があり、子どもからご年配の方まで楽しくテコンドーが学べる環境ができることです」と樋口さん。常にあきらめず、情熱を持ち続ける樋口さんの今後の活躍が期待されます。

### 国際親善第2回 熊本オープンテコンドー選手権大会! 阿蘇体育館(内牧)10月12日(日)9時開会

国内外の有力選手の白熱する試合をご覧ください。地元小・中学生の選手も出場します。問い合わせ先  
阿蘇支部長 西村紀幸  
☎090-9406-5652

